



		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震や津波を中心に災害から地域の安全を守るための諸活動について理解するとともに、各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べ、まとめる技能を身に付ける。</li> <li>・減災や防災に向けて自分たちでできることや大切なことを考え、広く知らせようとする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 釧路市防災危機管理課職員や防災士、NPO 法人による出前授業</li> <li>* 探求学習に必要な教材教具の準備</li> </ul> </li> </ul>
	5学年	<p>総合的な学習の時間「防災マイスター」20 時間扱い</p> <p><b>地震や津波への備えについてわかったことを伝えよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期に調べたことや一日防災学校を通してみんなに知らせたいことを発信する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 気象台「防災展示コンクール」への出品（気象台台長賞 9名 佳作20名入賞）</li> <li>* 「日めくり防災カレンダー」の作成</li> <li>* 学習発表会における「防災についての成果発表」</li> </ul> </li> </ul>
2月	5 学年	<p>「防災マイスター」冬の防災 DAY キャンプ実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館の暖房や照明を落とした状態でグループごとに避難ブースづくりや寒さや暗闇を解消させるための工夫等を考えながら体験する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 防寒や暗闇対応グッズや展示品の用意</li> <li>* 非常食の準備</li> </ul> </li> </ul> <p>「釧路市冬の防災訓練」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生の参加</li> </ul>
2月	5 学年	<p>総合的な学習の時間「釧路市冬季防災訓練」参加(会場校としての協力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大地震や大津波警報を想定した避難訓練への参加(保育園幼稚園児や高齢者へのサポート, 案内)</li> <li>・給水車からの水くみ体験, 救援物資バケツリレー参加, 防災グッズやブース参観</li> </ul>
3月	全校	<p>全校朝会「命を守る講話～東日本大震災を通して～」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災講話</li> <li>・防災に関するパネルや避難グッズ展示</li> </ul>

### 3) 9月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。

昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。

- ・「社会に開かれた防災の教育課程」：児童が主体的に地域の防災(減災)に関わり、それを発信することができた。
- ・「体験活動の充実(本物に出会う)」：1日防災学校や冬の防災デイキャンプの計画、実施。
- ・「災害を知る」：「いのちの日(3/11)」に合わせた防災展示を通して地域の災害の特徴を知り、減災について考えるきっかけとすることができた。
- ・「防災カレンダーの地域配布(助成金の活用)」：児童の取り組みや思いを広く周知できるようになった。

### 4) 実践の成果

#### ①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の観点から

児童が地域で起こりうる災害(主に地震・津波)を理解し、防災・減災の主体となって学びを深めたり、わかったことや思いを家庭や地域に発信したりしたことで、地域の防災意識を高める一助となった。

#### ②児童生徒にとって具体的にどのような学び(変容)があり、どのような力(資質・能力・態度)を身につけたか。

「災害は防ぐことができない(必ず起こる)が、一人ひとりの行動によって被害を小さくすることはできる」という減災の考え方に立つことで、どうすれば自他の生活や命を守ることができるかを主体的に考えるようになった。

#### ③教師や保護者、地域、関係機関等(児童生徒以外)の観点から

- ・地 域：「釧路市冬季防災訓練」を、本校を会場として実施。(2/14)
- ・保護者：北海道という地域特性から、TKB+Wの「W」の重要性を知り、減災への備えを充実させるきっかけとなった。
- ・教 師：大部分が未災者ではあるものの、これまで以上に災害に関する知識や情報量が増えた。「D-est(北海道災害時学校支援チーム)」への参加。防災士の資格取得

## 5) 工夫した点、実践の特徴・特筆すべき点

- ・児童が深く考えられるよう、専門家のサポートも受けながら体験的な活動を進めたこと。
- ・児童が考えたことを様々な形で発信(学習発表会、防災カレンダー、防災展示アイデアコンクール)することで、地域の防災意識の向上に貢献できたこと。

## 6) 実践から得られた教訓や課題と、次年度以降の実践の改善に向けた方策や展望

- ・教訓：「防災は不可能だが、減災は可能である」  
「日頃の備えによって、災害から生活や命を守ることができる」
- ・課題：知識はあるものの被災経験の無い教員と児童の活動が、実際の災害に対してどれくらい役に立つのかという不安がある。教員が入れ替わっていく中で、同等の活動を継続していくこと。
- ・改善に向けた方策、展望：学校と地域を繋ぐネットワークの構築(NPO との連携)。防災学習シートの活用。児童が主体的に減災や避難、避難所運営に関わっていくようにするための防災学習の計画。

## 7) その他 (※特にあれば記述)

※写真や画像、補足資料などがある場合は添付してください。写真は別途元データ (JPEG) もご提供ください。

